

KSKQ

ゆうとおん

通信

NO.117

2020年7月号

郵便振り込み口座 00910-9-106532

編集人 (社福) ゆうとおん通信 編集委員会 八尾市久宝園 2-30-4

一九九二年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価50円



宮田 裕子(みやた・ゆうこ)

1977年4月11日生まれ。富田林養護学校高等部卒業後、金剛コロニーへ。2008年3月、地域移行によりゆうとおんへ。

〇ゆうとおんに来てからのこと
金剛コロニーからゆうとおんに来たのは、あれ、いつ頃やったかなあ、もう忘れちゃった。コロニーでは、主に糸巻きの仕事をやっていました。そうやってお給料をもらってた。お給料は、そこそこあったかな。ゆうとおんの方がボーナスもあってお金がいい。その点はいいな。お給料はね、カラオケやライブに友だちといっしょに行ったりするために、目標を決めて貯めます。

うえーぶでは、最初はさをり班にいて、今は紙漉きの仕事をしています。厨房の仕事や、スタコラハウスではお客さんに注文を聞く仕事もして、楽しいし、やりがいを感じる。

ここで、生きる

ペンシリーズ No.15

「やってよかった」と思う。お客さんが「これおいしかったよ」と言ってくれるだけでうれしい。いろんな人と関わりたい。人と話をするのが好きなんです。

うえーぶのいいところ?ここは本当に、みんな明るい。なにかあったら必ず声をかけてくれる。職員さんね。楽しさがある場所だと思いますね。グループホームでの生活?今のホームね、メンバーさんはいいメンバーさんだらけ。

まあ満足しとかなないと。「どこかへ変わりたいです」と言ったらどこかあるのかな。ありがたいと思っています。

〇積極的に当事者活動「きめる会」に参加中

みんなで集まってメンバーさん同士で話ができるからとてもいいし、ああいう場所できか話せないこともあるから、きめる会の活動は必要だし勉強になるかな。活動の中で一番思い出に残っていることは、2019年ピープルファースト大会(大阪)で大きな会場で司会して、メンバーとのやり取りを自分でしたこと。会場に行ったときは、きめる会で司会するのと違って何百人の前で司会するから緊張してた。「うまくいくかな」「恥かくんじゃないかな」と心配になったけど、やり始めたらできた。あとから「やってよかったー」と思った。

(聞き手・松野 香織)

新人への期待を込めて

堀 智晴／（インクルーシブ「共生」教育研究所）

1、この人たちと世に光を

5月1日、午後6時から新人研修をさせていただきました。コロナ問題があるので、机に1人ずつ座りました。まず、参加者からこれまでの経験や、ゆうとおんに就職した動機などをきかせてもらいました。少しの時間でしたが意見を交わしました。

堀は「いわゆる福祉は、好きではない」と言いました。その例として、福祉の専門知識としてよく語られる滋賀・近江学園の園長糸賀一雄さんの言葉を紹介して話をしました。

古い考え…この子らに世の光を

（恵んでやるという発想）

糸賀一雄…この子らを世の光に

（知的障害者の生き方に学ぶ）

玉本 格…この子らと世に光を

（障害者と連帯して社会のあり方を変える）

玉本さんは、今も神戸で活動している「えんぴつの家」を創った人です。私は、この玉本さんの考え方が好きです。

これからは、障害のある人たちと共に、今の社会を「共生社会」へと変えていくことが必要です。

この考え方はゆうとおんの理念とも重なります。私はこの考え方に共感してゆうとおんに出入りさせていただいています。そしてゆうとおんに期待しています。

なおこのえんぴつの家の人たちは、ゆうとおんのメンバーと連帯してピープルファーストでも積極的に活動しています。

今、畑さんや土橋さんたちが創りだしてきたゆうとおんも世代交代の時を迎えています。

2020年度から入られた新人の皆さんに私は心から期待しています。

2、自分の考えを持って仕事に臨む

今回の感想に、「自分の考えを持って仕事に臨みたい」と書かれていました。これは私が職員の皆さんに願いたいことです。2014年に日本も批准した

障害者権利条約の基本精神は、〈当事者主体〉です。長い間自分の考えを無視されてきた障害者が、「私たちも自分の意見を持っている。私たちの意見を尊重しろ!」と叫んでできたのが障害者権利条約です。当事者の意見を尊重するには、まず、職員も自分なりの意見を持って生きているかが問われます。自分の考えをもち、それを大事にして生きている人は、相手の人の考えも尊重すると思います。

この社会は多様な人々によって成り立っています。一人一人が異なった存在です。この多様な人によって成り立っている共に生きる社会＝共生社会をゆうとおんから創りだしていきましょう。



堀 智晴（ほり・ともはる）

1947年生まれ。長い間、障がいのある子どもの保育、教育について、現場の保育者や先生と共同研究に取り組む。「今は、学校卒業後に、障がいのある人が地域の中でどう生きていけばいいのかについて考えています。みなさん、一緒に考えましょう」。インクルーシブ（共生）教育研究所代表。ゆうとおん監事。

「新人研修を終えて」

5月1日、ゆうとおんにて、堀 智晴先生による
新人研修が行われました。参加した職員の皆様の自
己紹介と感想をご紹介します。

●5月4日からゆうとおんに入社した富森政輝です。
利用者さんがグループホームで何不自由なく過ごし
て行けるように、生活に寄り添って行きたいと思っ
ています。頑張つて行きたいと思いますので、これ
から、よろしくお願い致します。

新人研修に出席していたみなさんの意見をいろ
ろ聞いて福祉サービスに関して、もっと勉強をし
て知識を深めて行かなければならないと強く思っ
ています。その知識を活かして、これからの仕事に
取り組んでいければと考えています。
(富森政輝)

●私は今年の3月にゆうとおんに、入社しました。
まだわからないことの方が多いので、いろいろと
教えてください。

堀智晴先生の新人研修を受け、世の中の福祉の
仕事への考えと当事者の方たちの福祉の仕事への
考えは似たような言葉でも、だいぶ意味合いが違
うと感じました。

堀智晴先生が勧められていた著者・東田直樹さ
んの「自閉症の僕が跳びはねる理由」のドキュメン
タリーを最近、他の講習で見る機会があり、自閉
症について少し知ることができ、よかったです。
(吉田健太)

●昨年10月末にゆうとおんに入職し、うねーぶに配
属になりました。福祉の仕事が初めての経験でもあ
りますが、前職で、2歳〜6歳までの発達障害の子
ども達の送迎、食事、歯磨きの介助、外遊びの見守
り等の仕事がつきついで今回転職しました。研修を
終えて、堀先生が、ちよつとしたメンバーさんの何気
ない落書きにも、すごく意味があるとお話しが印
象に残りました。これから、支援員という仕事に携
わっていく中で、メンバーさんのちよつとしたサイン
にも気付ける支援、みんなから頼られる支援員にな
れるよう、自分を磨いていきたいと思っています。そ
して、ゆうとおんの理念でもあるように、みんなであ
るべく働く場、平等で楽しく過ごせる環境作りを目
指したいと思います。

今回、有意義な講習を受講させていただき、有難
うございました。
(土田 美也子)

●今回の研修メンバーは、入社1年から私のように数
週間しか経たない新参者まで、年齢構成も、まわり
を見渡すと私の孫のような若者まで。つまりどこか
から見ても私が最高齢。講師から、それぞれ今の職
場を希望した動機を質され、民意が高い受講者ば
かり。少しでも障がいがある方の役に立ちたい、利
用者さんについて学びたい、学習していきたい、何
年も専門学校にかよわれた方、実践経験をお持ちの
方。。。おい、オジサン大丈夫かい！今までの人
生をふりかえり何かし得たことがあるかい？

「忘己利他」。己を忘れて他を利する、という仏
法の教えだと聞いてますが、我欲が先に立つて行
動してたような。。。もつと欲しい、もつとこうし
て欲しい。

うん。平仮名の「もうこりた」の人生を歩んできた
なあ。恥ずかしや、恥ずかしや。とうとう最後に指
名されてしまった。

開き直り。これで窮地を脱してきたことは数々あ
れど「もうウソは尽きたくない」。それが今の私がプ
ライド。大きいことは言わない。見栄ははらない。で
きないことだけでも努力しよう(すこしずつ)。

●3月に神奈川から大阪に越してきました。原田
貴弘と申します。早いもので大阪で始めた生活も3
か月が経ち、だんだんとみなさんとの生活も慣れて
きたところです。前職は横浜で身体障がいをお持ち
の方の支援を12年しておりました。ご家族のみなさ
ま、直接お会いすることはあまりありませんが、毎日
元気一杯にみなさまと共にお仕事を頑張りますの
で、よろしくお願い申し上げます。

さて、先日行われた新人研修に参加をさせていた
だきました。前職では主に重症心身障がい(児)者の方
の支援をしておりました。今回の研修を通して働き
方や知的障がいをお持ちの方の支援に対して理解
を深めることができました。まずはみなさんと一緒
にお仕事をして理解を深め、体験や経験をたくさん
して参ります。自分の持論ではあるのですが、どん
な障がいをお持ちだとしても、それが一つの個性であ
り、教科書では言い表せないものがあると思ってい
ます。その個性を引き出し、尊重して、みなさんと共
に生活がより良いものになるようにと改めて考えさせ
られました。講師の堀先生、お忙しい中講義をして
いただき、本当にありがとうございます。

(原田貴弘)

ゆうとおんうえーぶ

○新体制でのスタート

(新型コロナウイルス感染防止対応と楽しみの模索)

4月から新体制でのスタートとなりました。今年度は新規利用者はいらつしやいません。同時期に新型コロナウイルス感染症が感染拡大をし、感染防止対策、通所自粛のお願い、活動制限による休日の過ごし方の変化等、みなさんの日常生活が大きく変わる中でのスタートとなりました。うえーぶでも普段通りとは異なる状況が続いておりますが、新しいやり方を取り入れながら、楽しみを見つけたり、しんどいときは気持ちを落ち着け、ゆったり過ごしてもらえよう工夫をしながらの毎日です。みなさまには様々なご協力を頂き、感謝しております。

活動の中で以前からの楽しみとして定着しているのは園芸活動です。5月にはプランターの鉢植えを行い、花だけでなく、なすびやキュウリ、トマトなど夏野菜も植えました。もうすでにトマトが実を付けていて、毎日食事のあとに眺めて楽しんでおられる人がいたり、水やりなどの世話は主に内職班の方たちが担当してくれています。

また、この間、新しく楽しみとして始まったのは休憩時間のキャッチボールです。駐車場の空きスペースを上手に使い、主にクッキー班や紙漉き班のメンバーと職員もいっしょにボール投げや的当てを楽しんでいます。

ます。

事態の収束を強く願いつつ、平時と同じように安心して仲間とともに過ごせる場所、少しでも笑顔の多い時間を過ごせる場所であるように、1日1日を大切にしていきたいと考えています。

○日々のお仕事

販売や納品に制限がかかる状況があり、仕事を安定して確保できるよう事業所内で作業をシェアしたり、この機会にふだんできないこと等をしております。ただやはり、クッキー班は製菓作業をしているときが一番活気あるように感じます。「クッキーの注文が来たから、またよろしくお願いしますね」の声掛けに「任しといて!」と答えてくださったクッキー班Nさんの表情はとても輝いて見え、改めて、働く気持ちを支えていくことを考える機会をいただきました。みなさま、これから宜しくお願いいたします。

松野 香織



ゆうとおんはーと さをり班

私がゆうとおんに入職して、早6年が経つ。さをり班に配属されたときは、さをり織りの存在すら知らなかった。ミシンも裁縫も苦手な私は、試練の毎日だったことを思い出す。

ゆうとおんはーとのさをり班では、現在、十四名のメンバーが共に仕事をしている。十四名のメンバーの中には、最初からさをり織りをしているメンバーと、クッキー班や軽作業班からの異動組もいる。みんな、いろんな経験を経て、いま、さをり織りを頑張っている。

4月から、支援学校を卒業したばかりのKさんが仲間入りした。Kさんは、体も大きく、エネルギーがはち切れんばかりである。支援学校時代にさをり織りは経験済み。しかし、パタパタと十分ほど軽快に織り始めたと思うと、「がんばった！もう終わり！！」と廊下をウロウロと歩き始めてしまう。「えっ！！もう終わり？？」と、職員が織りを覗き込むと、十五センチほどだが驚くほど、きれいに織っている。1日の中で織りに集中する時間はさほどないが、まだまだ、可能性を秘めた原石であることには間違いない。

そんなKさんも、昼食の量に関しては、かなりの不満があるようだ。「おかわりしたい！」と厨房職員に必死になつて訴える様子が見られた。「おかわりはできないよ」と職員。「もつと食いたいよ！」とそんなやり取りも数日続くと、職員とのやり取りも笑いなが

ら楽しんでいるようにも見える。Kさんが来たことで、はーとの雰囲気も、明るくなつた感じがする。周りのメンバーも社会人1年生のKさんを自然と受け入れてくれたようだ。

ある日、Jさんに「好きに織っていいよ！」と職員が声を掛けた。すると「好きな色で織っていいの？」とすぐにとびきりの笑顔になる。職員の思いをメンバーに押し付けているかもしれないと、その瞬間、反省をした。さをり織りは個性が出る。うまく織ろうとすると、ボロがでる。計算されたものより、パツとひらめいた時の方が意外とうまくいくのである。

『自由である Ⅱ 簡単 ではない』と、さをり織りの考案者の城みさをさんは言っている。自由な織りこそが、ありのままの「自分」を表現できるのである。自分という存在が世界に一人しかないのと同じように、いま織っている織物も世界にひとつしかない。そう思うと、ひと織りひと織りに力が入る。

みんなの個性を引き出すツールこそが、「さをり織り」なのだ。好きに織ってほしい、楽しみながらやってほしい、それだけじゃ終わらせない。みんなから生まれてきたものに、スタッフが心を込めて製品にしておく。これからもさをり織りを通じて、みんなの笑顔がたくさん見られますように・・・

☆新型コロナウイルス感染症の影響で、例年の「さをり展」が延期となっております。みんなの作品をみな様に見ていただけるよう、時期を見ながら準備をしています。開催予定がきまりましたら、また、お知らせいたしますので、今しばらくお待ち下さいませ！



古川 晶子

ゆうとおんほーぷ 新年度を迎えて・・・

富澤

ほーぷでは就Bに小林俊介さん、生活支援員に原田貴弘さんが加わり、新年度スタートしました。が、、新人歓迎会も開けぬまま、コロナウィルス緊急事態宣言となっていました。この「Stay Home期間」での皆さんのお仕事ぶりを一部紹介します



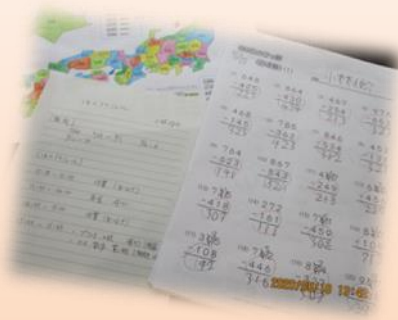
新聞記事のスクラップをしました♪



さをりの糸つむぎをみんな頑張った



一日1枚絵を書いたんだよ



毎日ドリル頑張りました！



お母さんと一緒にさをりの製品作りを

ご家族の協力も得て、長い長い Stay Home.

ほーぷと連携しながら出来た事、感謝いたします。ありがとうございました。

今も、お昼ご飯は2グループに分かれて、またミーティングなど、みんなが一同に集まることは出来ていません。

みんなの楽しみにしている行事などもどんな風にやっていけるのか、いろんな事を相談しながら、コロナに気を付けながらの日々にもみんなで取り組んでいきましょう！！

共同生活援助 わらゆん

「グループホームの今と、これからのこと」

上田 紫織

現在、ゆうとおんのグループホームは全部で六か所、三十一名の方が暮らしておられます。

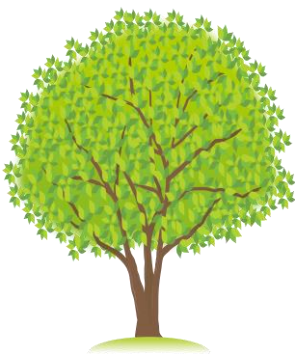
私がゆうとおんに入ったのは大学生のころで、週一回、金曜日にバイトとして来ていました。終わりのミーティングで、いつも「楽しかったです」と同じ感想ばかり言っていた自分に嫌気がさしていたのを今でも思い出します。メンバーさんと、どう関わっていいかわからないのが、わからないなかで、メンバーさんが気を遣ってくださるのが伝わってきて、ずいぶん救われていました。それから大学卒業後、自分自身では成長の実感のないまま、ゆうとおんで働くことになりました。配属はグループホーム「のびのび」でした。グループホームは正直、しんどかったです。同居メンバーさん、ひとりひとりのその日の様子を感じとり、食事を作り、そうじや洗濯など。あれから十五年もの歳月が経ちました。時間だけは誰にも平等にあるんだと思うほど、みなさんと共に、歳月を重ねてきました。さて、そこで課題です。グループホームは現在、高

齢化が進み、みなさん病気をされたり、持病が悪化されたりといった現状があります。そして、それらへのサポートを、グループホームでどこまでできるのか、メンバーさんご本人が望まれるのなら、ずっとグループホームで過ごしていただきたい気持ちもあります。ただし、病院で治療しないといけないといった場合も実際にはあるのです。

メンバーのみなさんがグループホームで暮らせてよかったと思えるようなホームでありたいものです。ですが、メンバーさん個人の本当の気持ちでは、どう思っているのだろうかといった不安もあります。たとえば、グループホームで「好きなだけお酒を飲みたい」、「たばこを吸いたい」、「夜中まで遊びに行きたい」などと思っても、自由にできない現状があります。それらにはどうしても危険やリスクが伴う場合があるからです。思いを無視して、ルールや枠を押しつけると管理的になってしまうと思います。それは避けたいですが、これがなかなか難しいのです。グループホームは入所施設よりは自由があるはずだと思っていた自分が情けなくなってしまうほど、自由な場所でもあるのです。そこで、流れ作業のようにスタッフが仕事をしてしまうと生活感が一気に消えてしまいます。メンバーさんに合わせた環境を作り、ゆつたりと心地良いと感じてもらえたら嬉しいのですが、メンバーさんにとっては、ひとり暮らしこそが、自

由な環境で過ごせる最終的な目標であるとも感じています。

一般的には、「障がい者」とひとくくりにされてしまうことも多いですが、私個人としては、「健常者」と「障がい者」は区別しないという考えです。近年は何でも「病気」や「障がい」と考える傾向にあります。ありもしない「普通」から少しでもはみ出していると「障がい」や「病気」と診断されてしまいます。でも実は、そのことこそが、「病気」や「障がい」を作り、個人のQOLを下げているのではないかと考えています。なかには、自分自身の「病気」や「障がい」を知っておくことで、生きやすくなるといった意見もあります。が、ひとりひとりが本来のその人、そのまま生きていける、本当の意味で生きやすい社会であればいいと思います。最後はグループホームのあり方から、かなり話がそれてしまいましたが、グループホームをもっと自由な空間にしていきたいと考えています。



相談支援

のびやか

ごあいさつ

後藤ミカ

今年一月、ゆうとおんに入社致しました、後藤

ミカと申します。前職では、大阪市内の通所施設で身体障がい、知的障がい、精神障がいをお持ちの方の生活介護の支援員として働いていました。家族のこともあり、ここ地元八尾で働くことを決め、ご縁があつて、ゆうとおんに入社致しました。入社してから二か月間は、各作業所へ研修に行き、メンバーさんと一緒に、さをり織や内職作業で関わらせて頂きました。二か月間は、あつという間で、一緒にお仕事をしたり、仕事以外でも、昼食を一緒に食べたリ、マルデカフエで話をしたりするなかで信頼関係も徐々に築くことができてきました。

これまで、支援をするなかで、「一緒に何かをする」ということを心がけてきました。言葉によつて語られることばかりでなく、時間や空間を共有すること、日々の些細なことからも、その人の感じていることや個性、持つている力を、知ることができます。共に笑ったり、悩んだり、一緒に考えたりとメンバーさんが幸せに過ごすことができるように、大変な状況の時は今よりも少しでも状況が良くなり暮らしていけるように、そんな支援ができる支援者でありたいと思っております。のびやかに配属になり、三か月ほど経ちましたが、メンバーさんと様々な場面に関わらせてもらい、毎日、新しいことの発見です。

ご家族・関係者の皆様へ

その人のことを知りたいという気持ちを持つことから支援は始まっていると思います。支援員としてののんびりとした生活は、これから経験を重ねながら、成長していきたいと考えています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

コロナ状況の中、面談に出席して頂いたり、お電話で対応させて頂いたりと同様なご協力を頂きましてありがとうございました。

今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

ぼちぼち、
やっていきます

よろしく
お願いします



藤本勝也

お知らせ:6月より、のびやか事務所が、これまであった本部2階から「ぼちぼちいこ」がある事務所と同じ場所に移動しました。

「^{けいかくそうだんしえん}計画相談支援 ってなんだろう??」

障がいのある方の生活や活動をサポートします。「サービス等利用計画」という、福祉サービスを使うときの計画を作成します。障がいのある方の思いや希望を大切にして、みなさんにあった生活を実現するために一緒に考えていきます。のびやかさは、サービスを使うとき、この「サービス等利用計画」を作成する相談支援事業所になります。関係機関との連携を行いながら、計画通りにサービスが利用できるかのチェックをしたり、必要があれば計画の見直しをします。

せいかつ おうえん
生活を応援します！

けいかくそうだん
計画相談

りよう 利用について

だれに相談したら
いいのかな？



かい みんなできめる会

2020年、みんなできめる会の新しい役員が決定しま

した。毎年3月に、翌年度の役員を決める選挙をして

おり、たくさんの立候補者が出ました。代表1名、副

代表2名が選ばれました。3名の思いをインタビューし

ましたのでご覧ください！



【代表】松田さん

自分の意見を言うことが

できないことが続くと、し

んどくなることがある。でも、みんなできめる

会では、自分の言いたいことを言いやすいと思っ

た。

前代表の宮田さんを見て、自分もやってみたい

と思った。

みんなの意見を聞いてまとめられるようにがんばりたい。

【副代表】山本さん

今までは、立候補とかしたことなかったけど、

いろんなことをやってみたくて、初めて副代表

に立候補しました。きめる会のメンバーさんと

ちと交流を深めたい

と思います。

【副代表】寺田さん

副代表は、チャレンジしてみたいと思って立候

補しました。ゆうとん以外のメンバーさんと

ボウリングがしたいです。



みんなできめる会は、当事者中心の集まりです。月に1度集まり、日頃感じていることや疑問に思うことなど

を、当事者同士で話し合い、意見を出し合う会議を行なっています。今年度より、会議の前に、まず役員と支

援者が集まり、次の議題について話し合う場を持つことになりました。一人一人のメンバーさんが、あらゆる

ことを積極的に考え、行動し、支え合える環境を支援者もいっしょに作って行きたいと思っています。コロナウ

イルスの影響で、今は活動がストップしていますが、みんなできめる会は、ものすごいパワーを持っている集ま

りなので、乞うご期待！！

(決める会担当職員・松岡知子)

コロナ下の近況報告と雑感

当世作業所事情 79

畑健次郎

6月5日の午後、仕事を休んで、久しぶりに電車を乗り継ぎ十三まで出かけました。車内のほとんどの人はマスク姿です。乗客のほとんどがスマホを手にしていた風景から、かなり様変わりしています。映画館の入り口で体温測定器をかざされて、館内に入ると観客は10人弱。

「精神ゼロ」は現役を引退する82歳の精神科医である山本昌知さんと妻の芳子さんの日常生活を淡々と映し出します。

患者とのやりとりを通して、山本さんがどんな医者だったのか、どんな人柄なのかが浮かび上がってきます。やがて観察力ほぼゼロの私にも、芳子さんが認知症らしいということが分かってきます。

山本さんの鷹揚さ、誠実さ、やさしさ、そして枯渇こかつしていない純情、そのどれも自分は持ち合わせていませんが、いいなあという気持ちだけは持ち合わせていました。

近鉄八尾駅で降りると、Aさんの住んでいるグループホームに向かいます。

Aさんは6月半ばから一人暮らしを始めます。引越し屋さんが届けると言っていた段ボール箱の確認と、ワンルームマンションには入りきらない荷物の処分を促すためです。

5年前、Aさんはグループホームで、Bさんとの暮らしをスタートさせました。約1年でグループホームを出て、週3回ホームヘルパーの支援を受けて、Bさんとの新婚生活に踏み出しました。

約2年の生活はやがて行き詰まり、二人は別々の人生を歩むことになりました。Bさんは再びグループホームを選びました。Aさんについては一人暮らしも模索もさくしましたが、とりあえずグループホームで

もう少し生活力をつけようということになりました。それから2年、Aさんは新しい恋人を見つけて再び二人の生活を夢見しました。前回は応援した私たちも、家族の反対や彼らの抱える状況を考えると慎重にならざるを得ませんでした。そうした話し合いを経るうちに、今度は一人暮らしを志向ししました。

今年の2月、当人、Aさんの母親、彼女が通う日中作業所も交えて、最終の意思確認をとりました。彼女の恋人に対しては否定的な母親も、一人暮らしにはゴーサインを出しました。

Aさんの一人暮らしには不安も付きまといいますが、たった一度の人生、自分の夢に向かってまた一歩踏み出したAさんにエールを送りたいと思います。

かつて相方だったBさんは、今もグループホームで元気に暮らしています。

彼がグループホームにやってきたのは十数年前です。当時、彼は一般就労していましたが、人員整理で雇い止めになりました。

それからゆうとおんの作業所に通いながら一般就労を目指します。何とか一般就労に就きましたが、一年の契約期間は更新してもらえませんでした。私たちは何度も就労先に足を運びましたが、先方の意思を覆すことはできませんでした。

大阪市内の就労支援機関の協力で行きだしたのが高齡者施設のクリーニング部門でした。月、水、金、¹⁰は一般就労、火、木はゆうとおんの日中作業所というパターンは今も変わりません。途中、その施設でも解雇されそうになりましたが、Bさんの後見人のCさんの助力もあって辛うじて首はつながりました。

Bさんはけがをして一月ぐらい仕事を休んだことがありました。せつかくつながつた首を守るために、ゆうとおんの職員が慣れないクリーニング仕事をするために、高齡者施設に「出勤」しました。

ようやく仕事も安定したところに、Aさんと知り合い一緒に住むことになりました。結果的に別れることになりましたが、二人ともその間の暮らしを悔やんでいる感じはありません。

コロナ騒動のなか、多くの人が窮屈な生活を強いられています。職を失ったり、店を閉じたりするケースも相次いでいます。罹患者や、医療従事者、そしてその家族が不当な扱いを受ける一方で、どさくさに紛れて政・官・財の癒着による焼け太りもありで、この間、いかにもこの国らしい風景を見せてもらっています。

ゆうとおんでも当事者の通所がぐんと減り、クッキーやパンの販売経路も閉ざされ、休みの日の外出もままならない日々が過ぎました。

最近やつといつもの日常に戻りつつありますが、ゆうとおんバンドも劇団ひなたぼっこも、リズム体操もまだ再開できていません。(6月中旬時点)

そんな状態で運営は大丈夫か、「倒産」しないかと心配してくれる人もいます。

たしかに、移動支援等を担当する事業所である、ぼちぼちいこかだけをみれば、収入は激減です。

日中作業所やグループホームは、家族の協力が前提ですが、在宅の通所者や入居者に連絡を取ることに

よって収入が補填^{ほてん}される臨時救済措置が適用されました。職員に関しては一時金の目減り程度で済みそうです。

もし感染疑いの人が出て事業所として一時的な隔離措置の必要が生じたときの対策も考えましたが、そのための態勢がはなはだ心もとないことも見えてきました。第2波に備え弱点を見つめながら、コロ

ナとの付き合い方を考えねばなりません。

個人的にはウロウロすることが減った分、以前読みかけて中断していた「新しい人よ眼ざめよ」を読みました。

大江健三郎さんは、ウィリアム・ブレイクの詩を手掛かりにして、障害を持って生まれてきた長男の光さんとの関係を考察していきます。

大江さんの引用するブレイクの詩は示唆的ですが、私には少し難解です。

ブレイクの詩はこんな風です。

〈眠れ、眠れ、おまえの眠りのなかで、小さな悲しみが坐って泣く。眠れ、眠れ、輝やかに美しいもの、夜の喜びのなかで夢見る〉

そして次のようにつづきます。

〈おお狡猾^{こうかつ}なたくらみが、眠っているおまえの小さな胸にしのびいる。おまえの魂が眼ざめる時、恐ろしい稲妻がきらめく〉

人間の無意識の世界や願望、再生について語っているようですが、私にはよく呑み込めません。

それならばと大江さんが子どもたちに向けて書いた〈「自分の木」の下で〉という本を手に入れました。

大江少年は1945年の敗戦を境にそれまでの「鬼畜米英・天皇陛下万歳」から180度転換して、「民主主義のすばらしさ」を説く大人たちの変わり身の早さを目の当たりにしています。

大江さんは自戒を込めて次のように言います。

「これまでやって来たことを続けよう。よくよく考えたうえでなければ、自分が今までやって来たり、いつてきたこととちがった方向に行くことはすまい」

そして子どもたちには次のように声をかけます。

「若い時には持っていたはずの誇りをなくして、しかもそれでいいんだ、という大人ならいくらでも見てきました。しかし、同じように開きなおっている子供には会ったことはありません」

若い時、私はどんな誇りを持っていただろうかと自問します。

よく考えもせず、ヒトサマの言い分を自分の意見のように言いつのつていたのではないか、自分より弱い立場の人に寄り添うふりをして、自分のずるさや弱さを隠してきたのではないか、そんな人間にどんな誇りがあるというのかという声が聞こえてきます。

その一方で、生意気で反抗的で、自信がないのに強がってみせるどうしようもない青年にだって、確かに誇りはあったことを思い起こします。世界中の人間が時の権力者になびいても抵抗する人間であり続けたいというひそかな思いはありました。

現実を前にして、そんな資質も決意もないことを思い知らされますが、それでも大きく変節せずに済んだのはかつての「誇り」のおかげかも知れません。

自分の思いに固執せず、だけど同調圧力にはなびかず、思うようにならなくても当たり前、うまくいけばもうけものというスタンスで、もう少し歩んでみようと思います。

ビオトープの畑だより

気候も暑くなり、ビオトープでは、夏野菜がすくすく育ってきています。収穫が楽しみです！



「編集後記」(今号の担当者が代わっています)
 ・締め切り日まで日にちも少ない中、原稿提供などに迅速に対応していただき、ありがとうございます。(G)
 ・慣れない編集で、模索しながらの作業でした。
 紙面へのご意見・ご感想は、編集委員会まで(M)

ビオトープには、野菜の他に花が咲いていたり、バッタなどたくさんの生き物も住んでいます。水やりがいにも、花をつみに行く事を楽しみにしているメンバーさんもいらっします。ビオトープには色々な楽しみがつまっています♪

目次

- ・新人への期待を込めて (2)
- ・新人研修を終えて (3)
- ・うえーぶ、はーと、ほーぷから (4~6)
- ・共同生活援助 わらゆん (7)
- ・相談支援 のびやか (8)
- ・みんなで決める会 (9)
- ・当世作業所事情 79 畑健次郎 (10・11)
- ・ビオトープの畑だより (12)

社会福祉法人 ゆうとん

本部 / 〒581-0834 八尾市萱振町 2-133 TEL 072-993-0785 FAX 072-993-0784
 ゆうとんはーと / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1 TEL 072-926-6200 FAX 072-926-6199
 ゆうとんうえーぶ / 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4 TEL 072-926-1543 FAX 072-921-8883
 ゆうとんほーぷ / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2 TEL 072-927-1300 FAX 072-927-1301
 スタコラハウス / 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11 TEL 072-995-4387 FAX 072-995-4387
 メールアドレス / youtone@live.jp ホームページアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~youtone>
 年会費 / 1口 2,000円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階 定価 / 50円